

IR ニュース

2019 年 10 月 <第 5 号>



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

巻頭言

IR 事始め：自分が持つデータや環境に関心を持つこと

IR 室では、IR 業務に関する基礎的な知識を学ぶ講習会、大学改革における IR 業務の重要性を学ぶ研修会、収集したデータをどのように可視化するかを身につけるセミナー等に参加してきました。その結果、IR 業務は特定の部局・個人の取り組みだけでなく、大学全体で推進する必要がありますことがわかりました。もちろん、全員が毎日の勤務の中で、教育、研究、社会貢献、入学者受け入れ等の IR 業務を行うのではなく、常に IR に関心を持って業務に当たるという意味です。IR 関連の部局を設けて 10 年以上の実績がある大学の担当者からは、「IR 業務の成功は大学内の教職協働、部局間連携がうまくいくかいなかにかかっている」とアドバイスをもらっています。

幸い、本学は教職員が何千人という大規模ではなく、キャンパスもまとまっており、教職員同士の顔の見える関係が構築されています。また、IR 室で主催した「第 1 回 IRer 養成学内セミナー」には、50 名の教職員の参加がありました。今後、IRer 養成学内セミナーの継続や IR 関連の講習会へ教職員を派遣することも検討しています。教職員全員が日常業務の中で自分の持っているデータ、自分を取り巻く環境に関心を示すところから始め、IR 室主導で本学の教育・研究・社会貢献等の現時点での強みと弱みを明確にして、強みをどのように発展させ、弱みをどのようなアイデアで強みに変えていくかについて、日々議論ができればと思います。

学長補佐（IR 担当）兼 IR 室長 平 伸二

IRer 募集中

私たちと共にデータ分析にご協力いただける方を募集中です。

目次

巻頭言	1
活動報告 1	2
IRer ミニ講座	2
活動報告 2	3
お知らせ	3

活動報告 1 合同シンポジウム・EMIR 勉強会報告

大学の教育活動の成果を検証する～学修成果は「誰のため」「何のため」に可視化するのか～

9月5日(木)～6日(金)に上智大学を会場にして、「大学の教育活動の成果を検証する」と題して大学 IR コンソーシアム他主催の合同シンポジウムと EM (エンロールメント・マネジメント) IR 勉強会がおこなわれました。その内容を簡単に紹介します。

- ・わが国の高等教育は、学修者本位の教育を実現するために、教学マネジメントの確立、学修成果の可視化と情報公開などが強く求められているが、可視化や情報公開は教学マネジメントの一環としての視点が不可欠である(文部科学省国立教育政策研究所前所長 常盤 豊)。
- ・IR は大学の教育・研究の質的向上等を目的とするが、IR に期待が高まっていることの背景には、学修成果の評価の困難性、社会で求められる能力の多様化、ディプロマ・ポリシーの達成度に関わる学修成果の検証可能なデータの必要性などがある(大学 IR コンソーシアム代表理事、大阪府立大学副学長 高橋哲也)。
- ・内部質保証と学修成果の可視化では、学修成果の可視化について、そもそも学修成果とは何か? を問い、学生にとっての学修の成果、大学にとっての教育の成果の違いを考慮した内部質保証と可視化の視点が必要である(関西学院大学教育学部准教授 江原昭博)。
- ・学修成果の可視化は教育活動の見直しや地域や社会に積極的に説明責任を果たしていく観点からなされるべきであるが、学修成果の可視化には方法が目的化する恐れがある。また、学修成果の可視化の目的はステークホルダによって異なり、大学の行う学修成果の可視化が大学外からの要請に合致していないことも起こり得る。大学自身が自らの文脈に基づいて、どのステークホルダにどのような情報を提供していくのかを検討し、継続的な測定を学内の仕組み(内部保証システム)として構築してゆく必要がある(政策研究大学院大学 林隆之)。
- ・2日目の EMIR 勉強会では、ゲスト招待講演としてニューヨーク州立大学オルバニー校副学長補佐の JACK MAHONEY による「米国大学 IR の最新事例」の講演が行われた。米国高等教育機関がさらされている大学進学者の減少、学生の負債の増加、学生や家族への情報提供、外部監査とアカウンタビリティ等エンロールマネジメントに関連する課題は多い。IR は大学の組織的な成功のためにこうした外部からの脅威と大学執行部や学内外の関係者との橋渡しの役割を担うものであることを紹介した。(占部 記)



IRer ミニ講座 第2回 エンロールメント・マネジメント(EM)

エンロールメント・マネジメント(EM)は「学生が大学に入学し、在学し、卒業するまでの流れを検査・調査し、管理しようとする IR 活動と企画機能」、つまり学生の入学から卒業までのすべての過程に関連する部署が実施する学生への支援業務と、業務に関する調査分析を包括的に示した用語です。

EM の業務は大きく2つにまとめられます。一つは学生募集、すなわちどのくらいの学生が本学を対象としており、そしてどのくらいの学生が入学してくれるのかを取り扱う業務、もう一つは学生フロー、入学した学生がどのくらい在籍しているか学生数の変化やその要因を捉える業務です。

そして EM を推進するうえで IR がどのようにデータを使うのかということが非常に重要です。EM の推進にあたっては、大学内外の幅広いデータを必要とするので、データの所在や形式の把握のみならず、日頃から関係部署と緊密にコミュニケーションをとり、常に連携できる関係を築いておくことが重要です。(記谷 記)

参考:「大学の IR 一意思決定支援のための情報収集と分析」 小林雅之・山田礼子(編著)

活動報告 2「第 1 回 IRer 養成学内セミナー」の報告

日 時：9月10日(火) 13:00-14:30

場 所：7号館2階プロジェクトラウンジ

参加者：50名

テーマ：Tableau を使ってみよう！

前半は、本学の IR 事情について、IR 室記谷がお話ししました。

文部科学省の方針により、大学に求められる IR の動向と、本学の IR 室の活動、および「福山大学 IR 指標」作成に向けてのお願いをいたしました。加えて今年5月にリニューアルした「Karin」について、使い方が浸透するよう利用方法を実習いたしました。

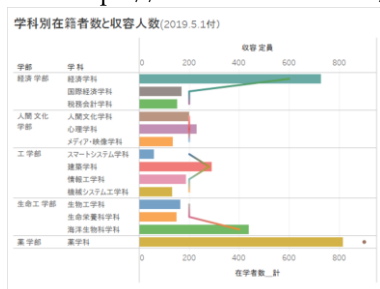
さて、学内の各部署で日々作成されている資料は、部署間で重複して作成していたり、一部の内容を追加、削除などして整理した上で作成されたり、多くの手間がかかっているようです。セミナー後半は、それらのデータを手間をかけず集約し、資料として可視化するソフト「Tableau」の利用方法について、体験版(14日間限定)を用いて、IR 室片桐が講習を行い、参加された教職員の方に Tableau の導入部分について体験していただきました。

説明会に参加された方には、Tableau の体験版を利用していただきましたが、現在は試用期間が終了しており、Tableau を利用できないと思います。当日は、都合がつかなくて参加がかなわなかった方は、以下のサイトに Tableau についての情報がありますのでご参照ください。「学生」または、「教員」は、教育用としての利用であればライセンスが無料で提供されています(お知らせ欄参照)。

「職員」は、教育機関向けの価格でのご利用になります。なお、職員の方に向けて Tableau の利用 ID を 1 ライセンス、準備していますのでご利用を希望される方はご相談ください。

Tableau についての HP

URL：<https://www.tableau.com/ja-jp/academic>



作成したグラフ



セミナー風景

今後の予定：

第 2 回 IRer 養成学内セミナー

日 時：12月26日開催予定

テーマ：学内データの可視化

ー地図上でデータを表そうー

場 所：未定



サンプル

(片桐記)

お知らせ

■ Tableau アカデミックプログラムについて

Tableau を教育・非営利の学術研究で使用する場合は 1 年間無料のライセンスで使用できます。

詳細については「Tableau アカデミックライセンスの申請方法」をご参照ください。

なお「Tableau アカデミックライセンスの申請方法」の PDF ファイルはキャビネット Karin 「情報公開」ライブラリからも参照できます。

編集後記

IR は大学運営の改善を支援することがその目的の一つであり、エンrollment・マネジメント(EM)支援はその主要な業務の一つです。

あらゆる部署が EM に関わります。例えばオープンキャンパス。参加生徒の出身地域と学科との間にどのような関係が見られるか。答えを探りたい方は第 2 回 IRer 養成学内セミナーに、ぜひいらしてください。

IR ニュース <第 5 号>

2019 年 10 月末日発行

編 集	IR 室
編集委員	平 伸二
	占部 逸正
	片桐 重和
	記谷 康之

ご意見・ご要望がございましたら下記までご連絡ください。

Email：irwg@fukuyama-u.ac.jp